

9日発行(偶数月1日発行)

特集 和室ノススメ

N^{o.} 145
2015 August

月刊 コンフォルト

インテリアの心地よさをつくる

CONFORT

創刊25周年&リニューアル記念号

和室ノススメ

WELCOME TO JAPANESE ROOMS



和室をもつ家2

縄文から現代、
そして100年後をつなぐ住まい

A HOUSE for OISO (神奈川県中郡大磯町)

設計 DGT. (DORELL GHOTMEH/TANE / ARCHITECTS)

取材・文 / 有岡三恵 撮影 / 繁田謙



南北に長く緩く傾斜した敷地に、道の曲線に沿って立つ。東側に設けた3つの庭が1階の諸室を分節する。1階は土壁、2階は木(ウエスタンレッドシダー)で構成。1階の内外壁は同じ仕上げで、基礎工事で掘った土に砂、礫石(大磯)、セメントを配合した材料を掻き落としで仕上げた。



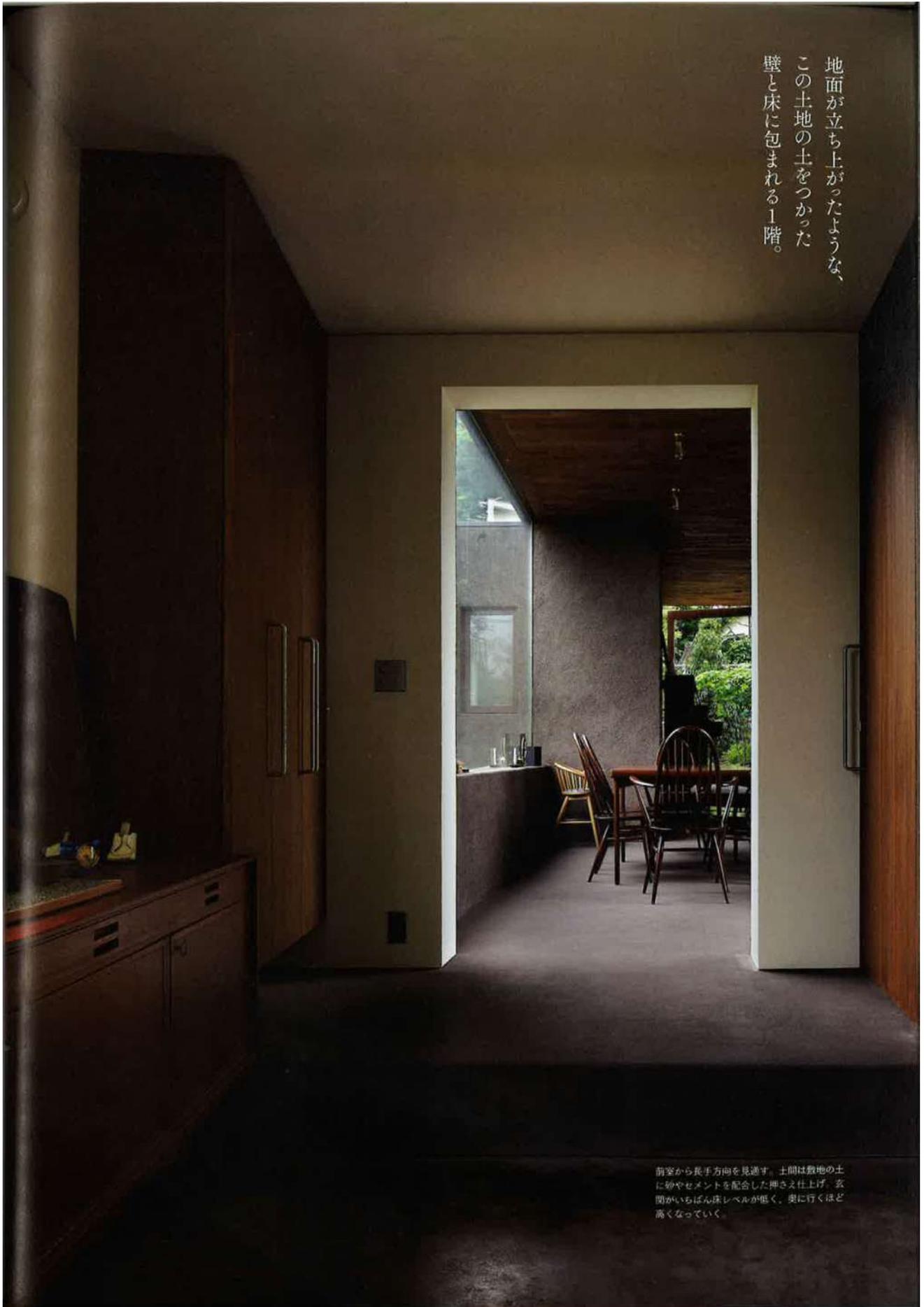
右ノ玄関脇の窓辺には、石と木で作られたこの家の模型が飾られている。左ノ前室に據して設けられた来客用の手洗いは建て主のSさんのこだわりのひとつ。土壁に壁掛け便器が設置されている。

前室は「TE HANDEL」というブランドで紅茶を販売するSさんのアトリエとして使用。下足のままの、昔ながらの土間のような空間。



地面が立ち上がったような、
この土地の土をつかった
壁と床に包まれる1階。

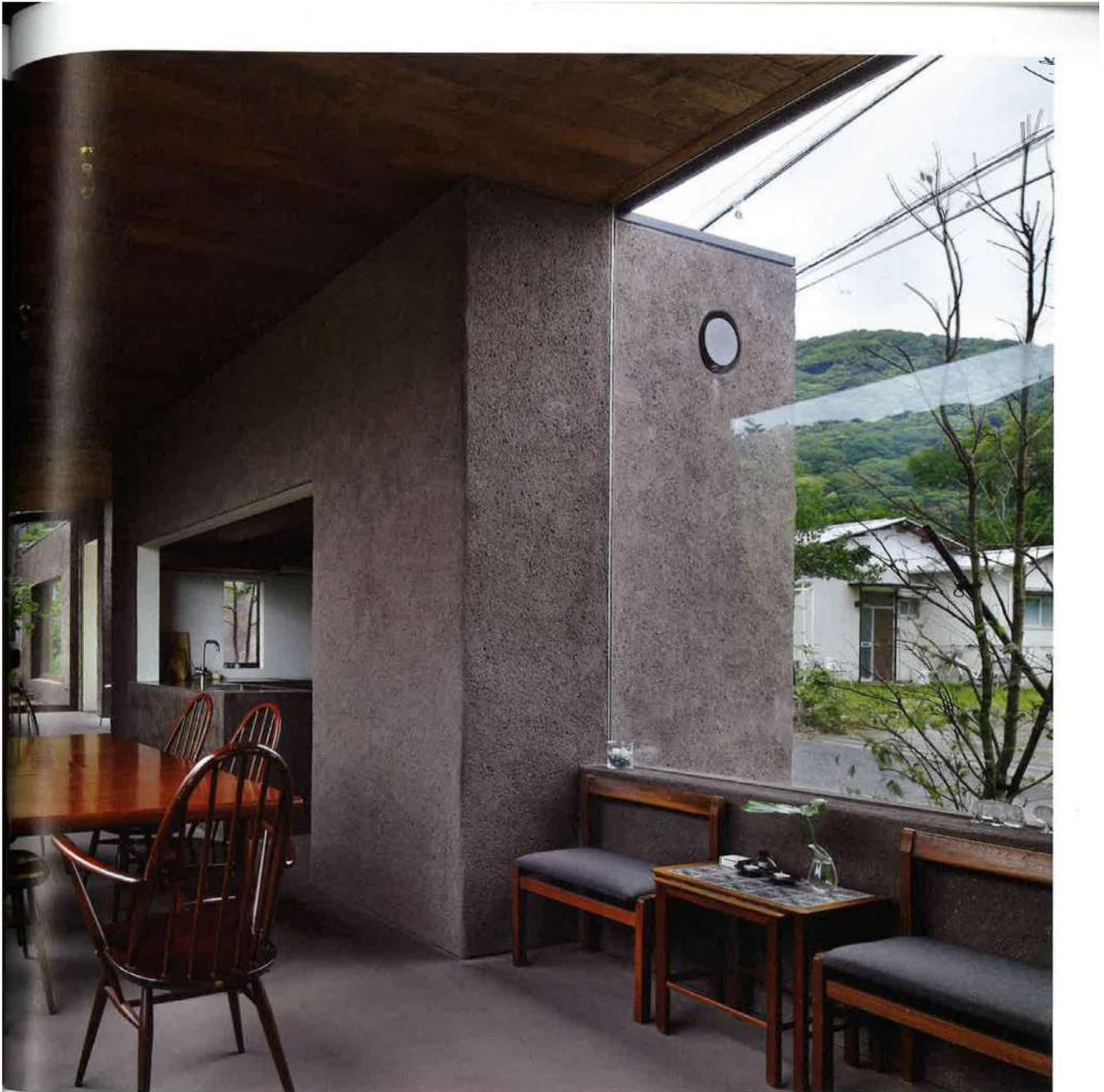
前室から長手方向を見通す。土間は敷地の土に砂やセメントを配合した押さえ仕上げ。玄関がいちばん床レベルが低く、奥に行くほど高くなっていく。



完成してすぐ、
ご近所の方がふらりと来て、ひと言。
「ずいぶん懐かしい家ができたね」



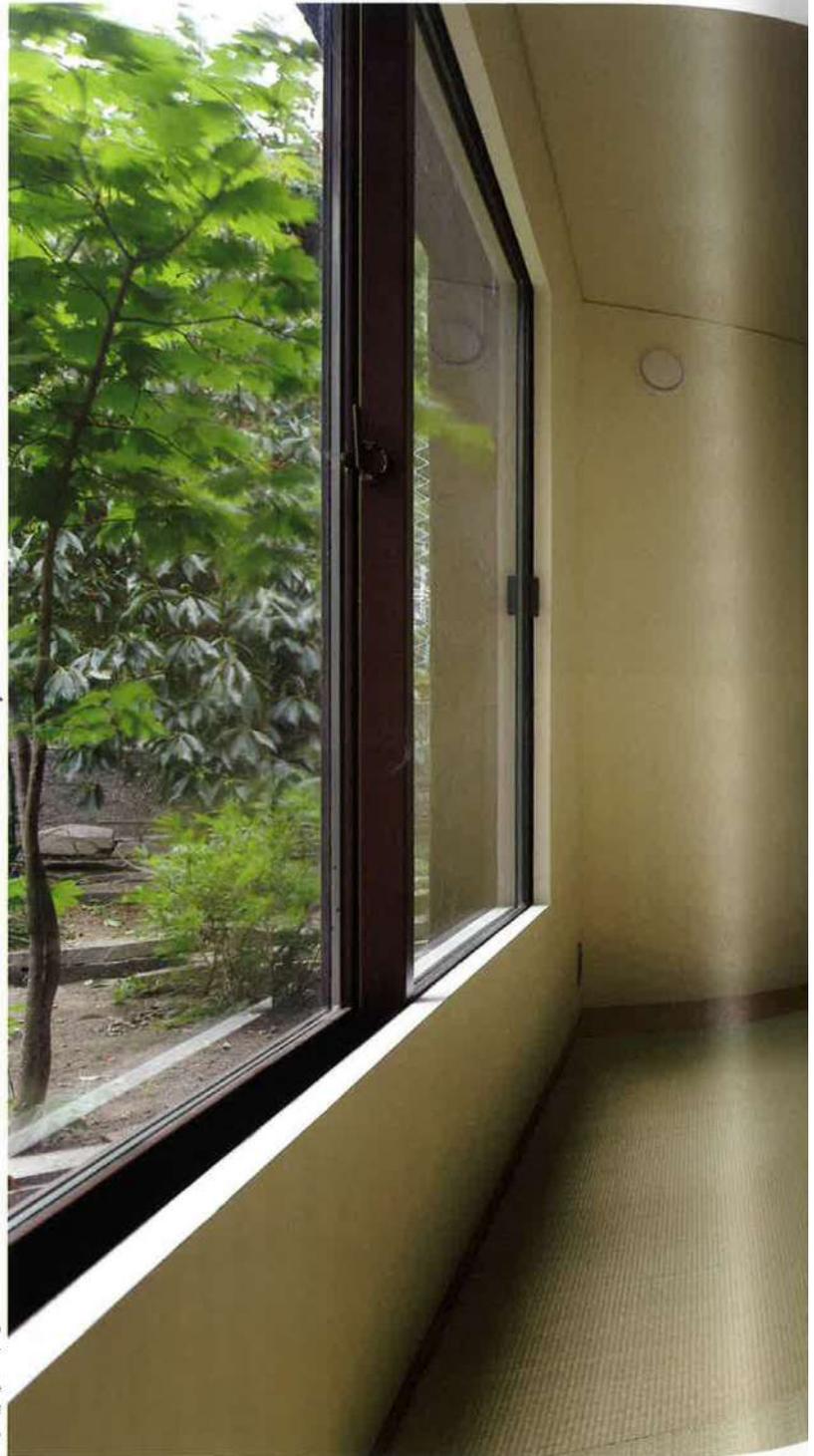
右／台所の天板も土をつかった左官で、研ぎ出し仕上げとしている。小窓からは、庭越しに和室の外壁が見える。左／西側の小径に面する届間の窓の外は、食べられる庭。シソやトウモロコシ、子どもたちの好きなメロンやスイカを育てている。小径は山からタヌキも下りてくる、まさにケモノ道。



斜面地のためGLよりも床レベルを下げた居間。地面の熱を活かして夏は室温を下げ、冬は地中熱と輻射床暖房（サーマ・スラブ）によって室内を暖める。床は土間と同じ材料を使用。ワイヤーブラシで表面を荒らして栗地仕上げとした。家具などの調度品は以前から使っていたものばかりだというが、土の床と壁の空間にしっかりと馴染んでいる。



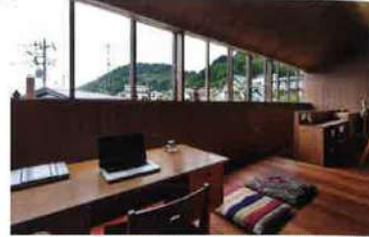
上ノ和室は、日常の場から一歩置いて入るプラン。四畳半の中央には屏が切っており、茶室としてつかうときは、引き戸の裏の収納を水屋とすることもできる。下ノ居間から和室前の「陰の庭」を見る。ピアノはSさんが子どものころにつかっていたもの。右手の白い壁が和室の入り口。



敷地の形状に沿った台形の和室は、四畳半の縁なし畳とナラ材の板間で構成。ゲストルームや書斎、瞑想（風寝）、そして茶室など、日常から少し離れた「静の場」として活用できるよう、あえてニュートラルな仕様に。屏風はSさんの曾祖母の着物をつかったもの。正面にあるのは、土壁のサンプル。

「離れ」のような余白の空間は、
自在な場所であるために
ニュートラルな仕様に。





右／プライベートな2階の「寝間」。壁と天井はラワン合板がぐるりと包む。1室の長い空間を、夫婦と子どもそれぞれのスペースとして家具でゆるやかに分節している。上／あえて海側には開かず、西面は山の緑を眺められるように横連窓に。ベッドから見る山や月が美しいのだそう。

ほの暗さが心地よい、竪穴式住居のような1階の土の空間と、高床式のような2階の木の空間をつなぐ階段。素材について最後まで悩んだというが、こども土を採用。

している。周辺には太平洋や高麗山から吹く風に応じた窓の配置や屋根勾配、軒の形状などのタイポロジーがあった。ここに「いわゆる箱型は似合わない」とスタデイを重ね、敷地の外形に壁を沿わせて4つの室と5つの庭を千鳥に配置する構成とした。東側の道に面する3つの庭は、長軸方向の壁を分節し柔らかな表情をつくる。居間と小径のあいだは家庭菜園。和室に面する庭は隣家の庭ともつながる緑地帯として外部との豊かな関係を築いている。「建ぺい率50パーセントの難しさを感じました。隣との関係を考えずに余白をつくると、バラバラの空地ができてしまう。日本の住宅地にまちなみがつくられない原因は、建ぺい率にあるのではないかと思います」

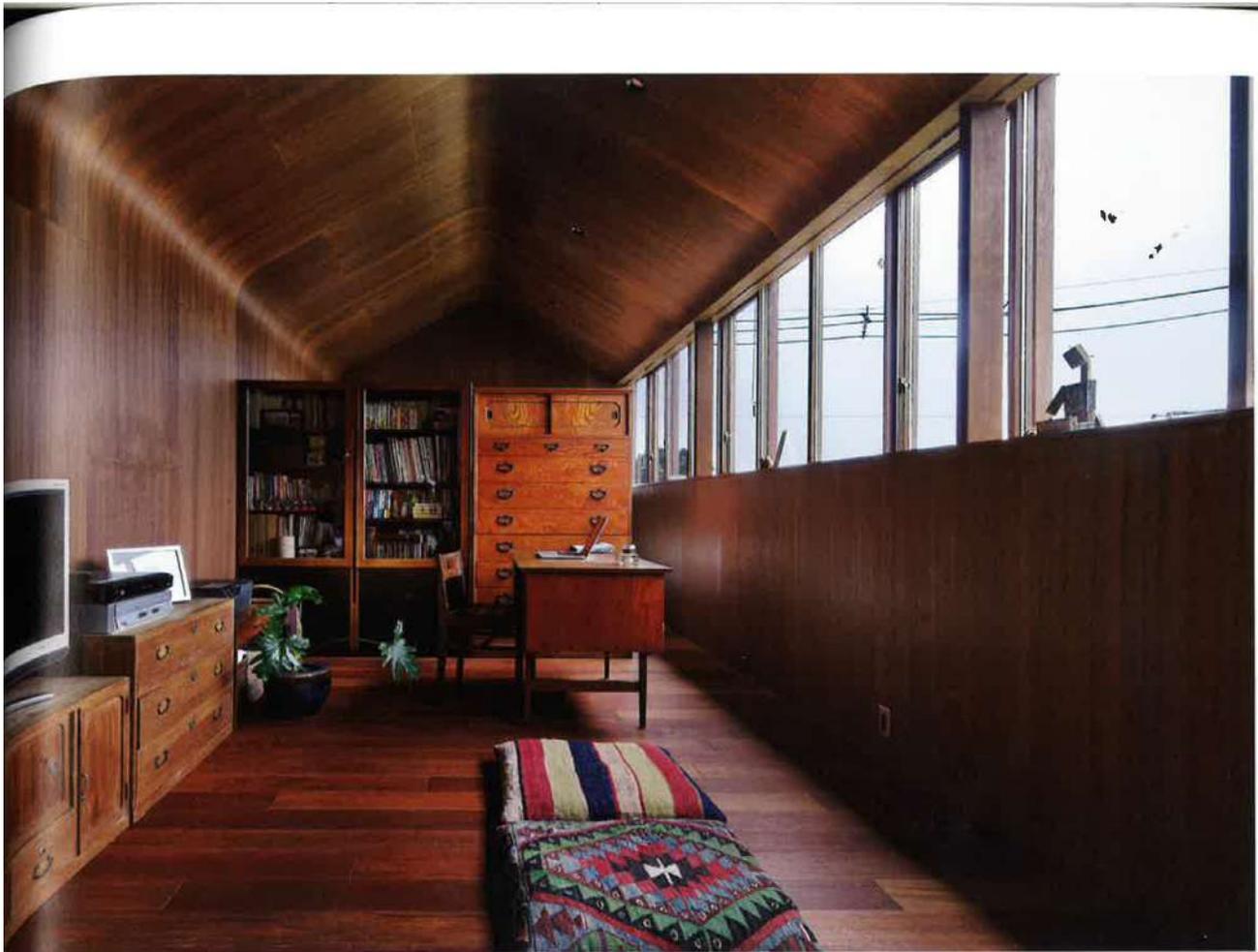
フランスやエストニアなど、文化や制度が異なる地域での田根さんの経験をjを経て見える日本のまちなみの姿だ。「土器が発見されました！ ドキドキ」。ある日、Sさんからメールが届いた。敷地の土を約1トン掘り進めていると、なんと縄文時代の土器が出土したのだ。

1階は、そのロマンあふれる土をつかった土間と土壁で構成される。竪穴式住居のように地面の温度を活かして、夏は涼しく冬は暖かい。アトリエや台所、和室など人を招き入れる多室の

「居間」とした。いちばん奥の和室は、居間から軸をずらしたことで「離れ」のような印象だ。四畳半の畳の周りを敷地の形状に合わせた板間が囲う。

2階は木で包まれた空間。高温多湿の気候風土のなかで保存のために生み出された高床の形式を参考に、家族がくつろぐ1室の「寝間」になっている。「はじめての住宅なので、建築家として何ができるかを考えました。その一つは形式性。昔からの住まい方を勉強して、日本の暮らしに向き合うなかで、近代以前の手法に至った」と田根さん。「近代化によって日本の住居は呼吸の仕方を忘れていたのではないか」「鉄・ガラス・コンクリートは乾燥している西欧のものだろう」と話す。地面の熱を活用したり、湿気を土壁で調節したり、大小の窓を適切に配置することで通風を促したり、眺望を楽しんだり。この家は気持ちのよい呼吸を手に入れたようだ。「完成してみても『日本の家』をつくりたかったんだと思いました」。

前近代的な手法と現代性を換骨奪胎した、空間や素材の明快な構成は「今後の日本の住宅のプロトタイプになり得る？」と問うと、田根さんは苦笑い。建築にプロトタイプを求めることこそ近代的な発想であり、その是非を考えると創造が生まれる、といったかったかもしれない。



日本古来の住まい方を考えた、
「この土地」のための家

神奈川県大磯町は、日本の海水浴場発祥の地で、歴代首相も多く暮らした由緒ある土地である。

東日本大震災を経て、また出産を経験し、この土地の住人になることを決意した施主夫人のSさんから、「100年後まで残る家をつくりたい」という依頼がバリ在住の建築家、田根剛さん(DGTT)のところにあつた。二人は共にスウェーデンへ留学していた15年ほど前からの旧知の仲。1000年先の未来を想定するのではなく、昔からありこれからもあり続けるような、「土地に根付く」という意志をかたちにするため、田根さんは大磯のリサーチを始める。すると江戸時代の東海道や宿場町の痕跡が残るのはもちろん、縄文時代の遺跡や古墳時代の横穴墓群、古墳も近隣にあることがわかった。数

千年以上の昔から、この地にはずっと人が住み続けてきたのだ。

「A HOUSE for OISO」。建物の名前が「in」ではなく「for」OISOである理由を田根さんに聞くと、「この土地のための家、という意味です。家族の生活を土地に捧げて生きるという精神性を表現したかった」。

「最初に聞いたときは、私たちのためじゃないんだね〜って(笑)。でも、まさしくこれだと思いました。土地はずっと続くもので、長い時間の中のこの一瞬、私たちが借りて住むという気持ちなので、社会やまちから長く大切にされる家がいい」とSさん。

Sさんが7年以上かけて探した敷地は南北に長く緩く傾斜した変形地で、東面は比較的人通りの多い道、西側は人より動物が多く通るような小径に接



南北断面図 1/250

DATA

A HOUSE for OISO

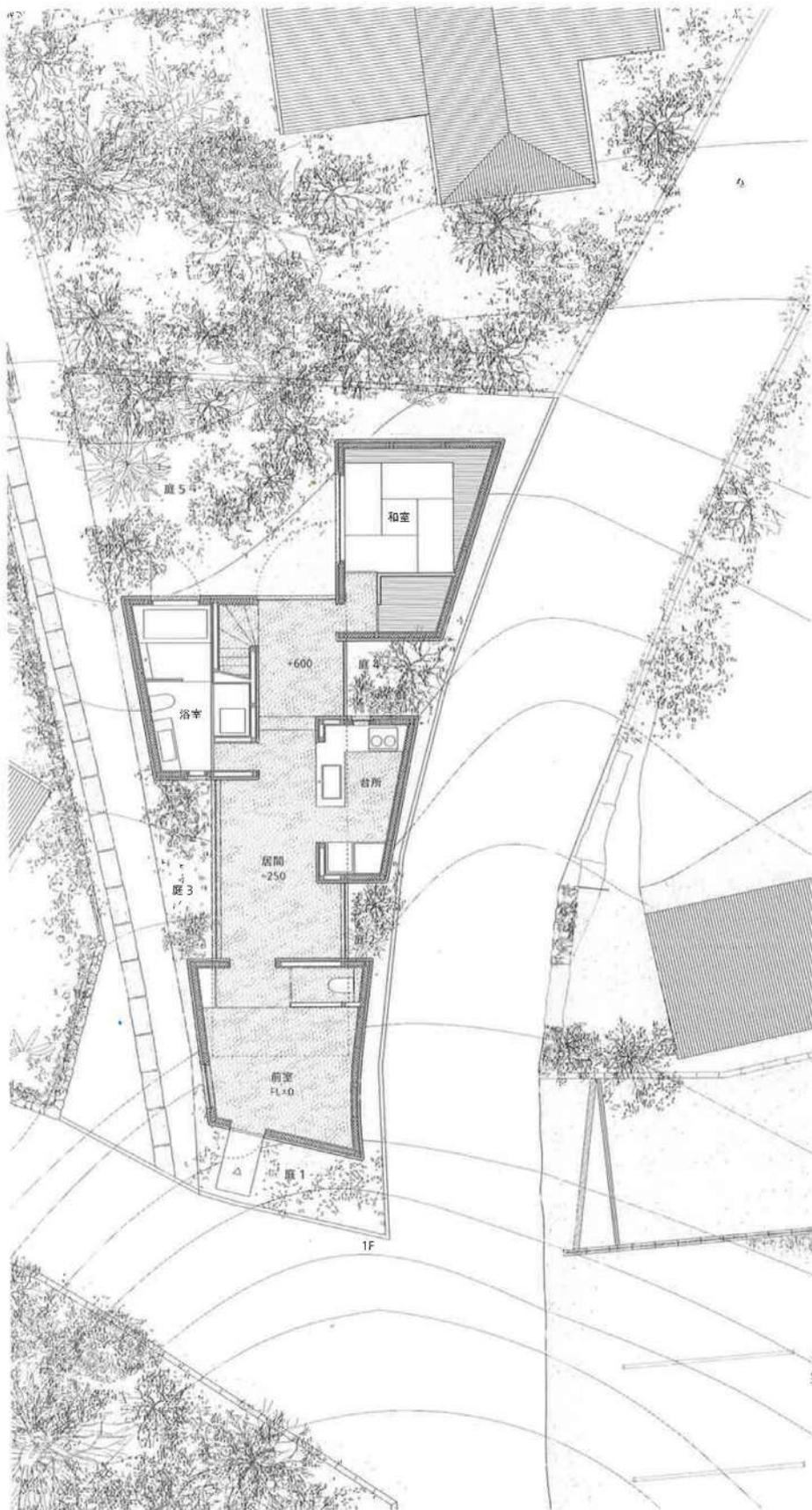
家族構成 / 夫婦 + 子ども3人
 所在地 / 神奈川県中郡大磯町
 用途地域 / 第一種低層住居専用地域
 敷地面積 / 168.75㎡
 建築面積 / 80.92㎡ (建築率47.96% 許容50.00%)
 延床面積 / 119.73㎡ (容積率70.96% 許容100.00%)
 1階 80.92㎡ 2階 119.73㎡
 構造・規模 / 木造 一部鉄筋コンクリート造 地上2階建て
 建築設計 / DGT. (DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS) 田根 剛, 早坂直貴, 川田真理絵 (元所員)
 構造設計 / yasuhirokaneda STRUCTURE 金田泰裕
 施工 / 栄港建設 中藤一芳
 土壁外装・内装 / 今城左吉 今城哲浩
 設備・電気 / EOS plus 高橋翔
 外構・造園 / 大橋憲匠 大橋幸治
 草花庭 苔丸 赤地光太郎
 設計期間 / 2014年1月~8月
 施工期間 / 2014年9月~2015年4月

おもな外部仕上げ
 屋根 / ガルバリウム鋼板 外壁 / 土壁掻き落とし仕上げ、ウエスタンレッドシダー塗装
 開口部 / ステール製サッシ、木製サッシ

おもな内部仕上げ
 前室 / 床: 土床押さえ仕上げ 壁・天井: 石こうボード EP
 トイレ / 床: 土床押さえ仕上げ 壁: 土壁掻き落とし仕上げ、石こうボード EP 天井: 石こうボード EP 便器・洗面・水栓金物: T-form
 玄関 / 床: 土床押さえ仕上げ 壁: 土壁掻き落とし仕上げ 天井: タモ無垢材パネリング
 台所 / 床: 土床押さえ仕上げ 壁: 土壁掻き落とし仕上げ 天井: 石こうボード EP
 浴室 / 床・壁: 磁器質タイル T-form 天井: ケイ酸カルシウム板VP バスタブ: セラトレーディング シャワー水栓金物: グローエ 便器: LIXIL
 和室 / 床: 畳 (障無し)、ナラ突板 壁・天井: 石こうボード EP
 廻廊 / 床: メルバウフローリング 壁・天井: ラワン突板合板塗装



DGT. (DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS)
 2006年、ダン・ドレル(イタリア・右)、リナ・ゴットメ(レバノン・中)、田根 剛(日本・左)による建築事務所DGT. (DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS)をフランス・パリに設立。2006年「エストニア国立博物館」の国際設計競技にて最優秀賞(2016年完成予定)、2012年の新国立競技場国際競技案「古墳スタジアム」が最終選考に選ばれるなど、国際的な注目を集める。代表作に「グランパレ・北斎展」、「CITIZEN - LIGHT is TIME」など。フランス文化庁新進建築家賞(2008)、ミラノ建築家協会賞(2008)、ミラノ・デザイン・アワード2部門(2014)など受賞多数。
 75 rue de la Fontaine au Roi 75011 Paris FRANCE
 tel +33 1 43 38 12 47 fax +33 1 43 38 12 85
 contact@dgtarchitects.com
 http://www.dgtarchitects.com



平面図 1/150



2F